

「土砂災害を経験して」

富山県 富山市立城山中学校 1年 山藤^{やまふじ} 玲愛^{れあ}

令和5年7月12日から13日にかけて富山県全体で大雨が降り、富山県内で初の線状降水帯が発生しました。12日の夜。私は、いつもと同じように学校の準備をしたりご飯を食べたりしていました。夕方から降っていた雨がだんだんと大雨になっていたの少し心配でしたが、ニュースを見て降るのは深夜だけで13日の朝からは曇りや晴れの予報となっていたので安心して眠りにつきました。しかし、日が明けた13日の深夜2時30分頃私は、父と母の電話をしている声で目が覚めました。寝る前よりも雨の音が大きいような気がしたのでテレビを付け、ニュースを見ました。すると、富山県で線状降水帯が出ていました。最近九州や中国地方などで線状降水帯が出ていたけど、まさか富山でおこるとは思っていなかったのびっくりしました。その時、電話を切った母が「家の前で土砂崩れがおきているからとりあえず1階に降りるよ」と言いました。私は、弟をつれて1階に降りました。しばらくして、父と母が現状を確認していたので私は弟と一緒にテレビを見て待機していました。その間に窓から外を見ていると、いつも通っている家の前の坂の半分以上が土砂でうまっていました。私が外を見ている間に父が区長さんに電話をかけていました。数分後に区長さんや近くの会社の社長さんが家に来て状況を確認しながら父と母と話していました。区長さんの話だと、私の地区内でも何カ所か崩れているところがあるとおっしゃっていたそうです。そこから数十分後、母と父が家の中に入ってきて、「まだ土砂崩れがおきる危険があるから近くの避難所に避難するよ」といいました。急いで荷物をまとめました。そして、近くに止めていた父の車のところに行きました。その時に土砂崩れのすぐ横にあるトンネルの状況を見ると電線が巻き込まれていつもは見上げないといけない位置にあったのにその時は、私の腰ぐらいの高さまで落ちていました。その光景を見て怖くなりました。また、車まで行く際長靴を履いていたけれど、長靴の半分以上が土砂にうまり歩きにくかったです。父の車に乗り込んで近くの小学校に行くので駐車場に車が数台止まっていて車の中で避難している方もいました。また、小学校の体育館や交流センターも避難所として開設されていました。父が避難所の状況を確認したけど、中で避難している人はいませんでした。私達も駐車場に車を止めて仮眠をとりました。2時間後目を覚まし、時計を見ると朝の5時でした。家族で相談して、状況を確認するために一度家に戻ることになりました。なんとか荷物を持って家に帰ることができました。少し経って家の周りや畑に被害が無いか確認しに行きました。確認したら被害はなかったのとても安心したのを覚えています。そして、家で休んでいると、近くの会社の方が来てくださり、重機を使ったり手作業でトラックに乗せ、土砂を運んでくれました。そして、2、3時間で撤去が完了しました。こうして、私達はいつもの日常に戻ることができました。私は、この経験を通して二つの事を学びました。一つ目は、色々な人に助けられたことです。今回の土砂崩れで道が通れなくなったので、すぐに立入禁止と通行止めの看板が設置されました。二つ目は、自然災害の怖さです。この土砂災害で災害の怖さを身をもって体験しました。未だに崩れた部分は直されておらず、雨が降った際にはまた崩れるのではないかと不安になることがありますが、少しずつ補修の工事が予定が計画されて来ています。最近も全国的に大雨が降っているの土砂災害を含めた災害に対して非常持ち出袋を作っておいたり家族間で連絡を把握しておくなどいつ災害がおこっても対応できるように平日頃より心がけたいです。また、近所の方は高齢者で、一人暮らしをされている方もいるのでその方とも連絡を取れるようにしたり、日頃のコミュニケーションも大切だと思います。